FUKUCHI
広報ふくち
Public Relations
No.251
November
2026
11

方城旋風

方城中学校バスケ部の強さに迫る

HOUJYO BASKETBALL TEAM

左から、方城中バスケットボール部レギュラー選手で先発メンバーの杉原 翔太(２年)・堀江 悠斗(３年)・柳瀬 寛太(３年)・大屋 鉄二(３年)・津久田 諭(1年)。

PROFILE

石谷（いしたに） 佳（けい）コーチ

近畿大学附属福岡高校で県大会3位、国体選抜準優勝。鹿屋体育大学では九州リーグ4連覇、最優秀選手賞を受賞。インカレ4位、国体選手として活躍。社会人クラブでは全国・九州選手権で各2回優勝を経験。

快進撃の裏側に迫る
石谷佳コーチが語る軌跡

HOUJYO BASKETBALL TEAM

方城中学校 福智町

初の全国大会でベスト8

勝利を重ねるたびに、自信を深めていった選手たち。しかし、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。県大会で味わった悔しさを力に変え、九州の頂点、そして全国の舞台へ。その快進撃の裏には日々の努力と仲間との絆、勝利をつかむための確かな理由がありました。方城中学校男子バスケットボール部の躍進の軌跡と、その強さの秘密に迫ります。

夏の大会	2025年度	2026年度
筑豊地区大会	優勝	優勝
県大会	3位	準優勝
九州大会	——	優勝
全国大会	——	ベスト8

大会結果

大会名	対戦相手	スコア
県大会	準決勝 VS 河東	72-50
〃	決勝 VS 菊陵	37-48
九州大会	準決勝 VS 江北	45-41
〃	決勝 VS 菊陵	40-37
全国大会	予選L VS 埼玉栄	57-41
〃	予選L VS 郡山三中	46-59
〃	決勝T VS 東月寒	59-53
〃	決勝T VS 成立学園	42-64

積み重ねた努力が大きな飛躍へ

夏の地区大会を制した方城中。県大会では準優勝を果たし、初の九州大会へ進みました。九州大会では、県大会で敗れた菊陵中学校（北九州市）と決勝で再戦。雪辱を果たし、九州の頂点に立ちました。さらに、初出場の全国大会でも堂々のベスト8に進出。町内の中学校から全国の舞台へ。選手たちの挑戦が、新たな歴史を刻みました。

敗戦から学び、勝利への道を切り開く

「九州大会を振り返る中で、重要な一戦は決勝ではなく準決勝の江北戦だった」

そう語るのは、方城中学校男子バスケットボール部の石谷佳コーチ。九州大会で最大の山場と捉えていたのは、準決勝の江北戦でした。江北中（佐賀県）には練習試合やカップ戦で敗れており、6月初めの対戦でも約20点差をつけられたといいます。石谷コーチが力を注いだのは、徹底した試合映像の分析。過去の対戦を繰り返し見直し、相手の特徴や戦い方を研究して、対策を重ねました。準決勝での対戦となったことも働き、決勝であれば疲労が重なり、さらに厳しい戦いになったかもしれないと振り返ります。敗戦を学びに変え、準備を尽くして挑んだ一戦。その大きな勝利が、悲願の九州制覇への道を開いたのです。

日々の当たり前の質をさらに上げることが必要

「現状維持は衰退」

徹底した準備を重ね、つかみ取った九州制覇。しかし、その強さは一朝一夕に築かれたものではありません。特別なことをしていたわけではなく、思うような結果が出ない時期も、当たり前のことを当たり前以上に徹底してきました。「現状維持は衰退」。石谷コーチが大切にする言葉です。日々の取り組みの質を高め、ひたむきに地道な努力を積み重ね続けてきたことが今回ようやく実を結び、全国ベスト8という快挙につながったのです。

涙の先に見えた成長、全国の舞台で得た大切な「宝物」

初の全国大会でベスト8という快挙を成し遂げた選手たち。しかし、その道のりは勝利の喜びだけではありませんでした。

全国大会の予選トーナメント2回戦。郡山三中学校との試合後には、悔し涙を流す選手たちの姿がありました。それでも自ら集まり、課題や改善点を話し合う姿に、石谷コーチは確かな成長を感じたといいます。

3年生が全国で戦った姿は後輩への一番の「教科書」

全国で戦った3年生。その背中は、後輩たちにとって何よりの教科書となりました。石谷コーチは「恩返しは、言葉ではなく結果で」と、後輩たちに思いを託します。そして3年生には、全国ベスト4に届かなかった悔しさも財産に変え、高校という新たな舞台で自分と向き合い、成長を続けてほしいと願っています。

方城中バスケ部はなぜ強いのか

全国の大舞台で快進撃を見せた、その強さの裏には、日々の努力と仲間との固い絆がありました。

「リバウンドを制するものがゲームを制する」 #1

突出した得点力を持つエースがいるわけではない。それでも強豪相手に勝負できる理由は、チーム全員で徹底する守備とリバウンドにあります。普段 70 ～ 80 点を取る相手を 50 点前後に抑える粘り強い守備。そして、誰か一人に任せるのではなく、全員でボールを取り切る姿勢。一人ひとりが役割を果たすことが、方城中バスケ部の快進撃を支えています。

3つの力がつなぐ「勝利のトライアングル」 #2

今年のチームを象徴する言葉「ワンチーム」

「選手」「保護者」「コーチ」が互いを信頼し、喜びも悔しさも分かち合いながら、全国一の強い絆を育んできました。保護者も選手を支えるだけでなく、時には指導者と同じ目線で向き合い、試合では全力で応援。三者が一体となった「勝利のトライアングル」が、快進撃を支える大きな力となっています。

技術があっても体の当たりで負ければ勝負にならない 3

筋力だけでなく、体の使い方を重視したトレーニングが強さの土台となっています。ブリッジや逆立ちなどを通して柔軟性を高め、相手との接触にも負けない体づくりに取り組む選手たち。土日の練習では約３分の１を体づくりに充て、外部トレーナーから学んだ知識も取り入れながら、実戦で生きる身体能力を磨いています。

自ら考え、行動する力 #4

練習中はもちろん、試合中も選手同士で積極的に言葉を交わす方城中バスケ部。石谷コーチは、「選手たち自身で話し合い、考える時間」を大切にしています。指導者がいない場面でも、自ら声を掛け合い、高い意識で練習に取り組む選手たち。仲間と考え、行動する自主性が、チームの強さです。

文武両道 #5

バスケットボールだけでなく、勉強や学校生活にも真剣に向き合う選手たち。石谷コーチは、将来の選択肢を広げるためにも、学ぶことを大切にしています。夏休みには練習の合間に全員で宿題に取り組み、提出期限を守ることも徹底。当たり前のことを当たり前に実践する姿勢が、コートの外でも育まれています。

バスケ部顧問 芳野 友希先生

子どもたちの成長を見守る最高の特等席

4月に赴任した当初は、新しい環境に慣れることで精いっぱいでした。自分にできることを少しずつ積み重ね、バスケットボールの技術だけでなく、学校生活での姿勢も大切にしてきました。私自身、指導者として学ぶことばかりです。コーチの姿からは、人を育てることの大切さを教師としても学んでいます。今の3年生のように2年生が成長できるか不安もありますが、その成長を間近で見守れることが楽しみです。

自分と向き合う成長ノート

練習や試合での気づきをノートに書き込み、自分自身を振り返る時間を大切にしています。書くことで学びを記憶に残し、悩んだときに見返せる財産に。「ノートを大切にすることは、自分と向き合うこと」。その積み重ねが上達につながっています。

軌跡と未来

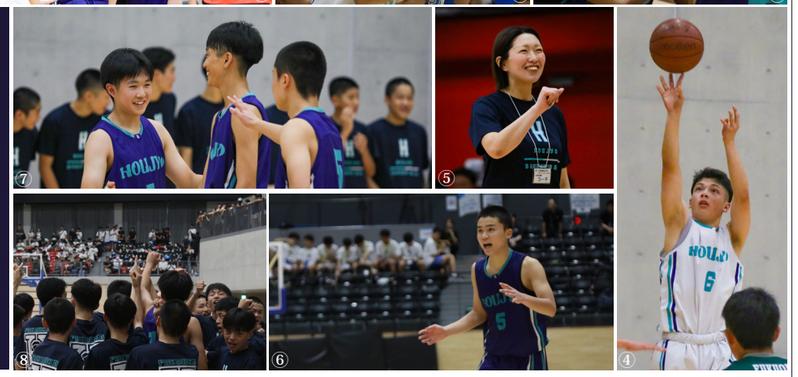
学びの軌跡から未来を描く

YANASE KANTA
柳瀬 寛太【3年】

初めての全国大会は良い場面もありましたが、課題も残りました。後輩たちが今のメンバーを超える活躍を見せてくれることを期待しながら、今後はOBとして支えていきます。

OYA TETSUJI
大屋 鉄二【3年】ゲームキャプテン

仲の良さを大切にし、ゴミ拾いや掃除、身の回りの整理整頓も徹底してほしい。僕たちの思いを引き継ぎ、全国ベスト4を目指して頑張ってほしいです。



①県大会の序盤コーチを囲み、次の展開に向けて話し合う選手たち。②全国大会で懸命に応援をする1年生。③1年生マネージャーもチームを支える大切な存在。④狙いを定め、ゴールへシュート。⑤選手のプレーに思わず笑顔こぼれる石谷コーチ。⑥仲間に声をかけチームを鼓舞するゲームキャプテン。⑦県大会で名前を呼ばれ、いざ決勝のコートへ。⑧拳を突き上げ、チームの士気を高める。

HORIE YUTO
堀江 悠斗【3年】チームキャプテン

これまで培ってきたディフェンスやチーム力を生かし、支えてくれた人たちへの感謝を忘れず、高校でも仲間を引っ張り、チームを支えられる選手へと成長していきたいです。

SUGIHARA SYOTA
【2年】杉原 翔太

自分が試合に出られる一方で、出場できなかった3年生もいます。その思いも背負って全力でプレーし、先輩たちが残した記録を超えられるよう、頑張りたいです。

子どもたちの挑戦を一番近くで支えてきた保護者の水永さんと堀江さんが、成長を見守った日々と、忘れられない夏への思いを語ってくれました。

九州大会、全国大会という大舞台を経験できたことを、本当に嬉しく思います。勝利だけでなく、子どもたちが努力を重ね、仲間と支え合いながら壁を乗り越えてきた過程にこそ大きな価値があります。この経験は子どもたちの自信と成長につながりました。

この経験はかけがえのない「財産」に

石谷コーチは、技術だけでなく、人として大切なことや困難を乗り越える力を教えてくださいました。また、先生や応援していただいた皆さん、沖縄で温かく迎えてくださった中城村（なかぐすくそん）の皆さんの支えがあったからこそ、大きな舞台に立つことができました。多くの方々への感謝と仲間との絆を実感したこの経験は、子どもたちのこれからの人生においても大きな支えになると思います。

↑全中終了後、最後の終礼に涙を流す石谷佳コーチ。

積み重ねてきた想いを携え未来の後輩へ繋いでいく

全国の大舞台で手にしたのは、ベスト8という輝かしい結果だけではありませんでした。全国の強豪との戦いで感じた手ごたえや、あと一歩届かなかった悔しさ。その一つひとつが選手たちにとってかけがえのない経験となりました。新人戦から始まった快進撃は、方城中バスケ部の歴史に新たなページを刻みました。その躍進を支えたのは、日々の努力と仲間とその絆、そして子どもたちを家族のように思い、ともに喜び、ともに悔しがる石谷コーチの深い愛情でした。勝利だけでなく、人としての成長を願う思いが、チームの大きな力となっています。

新たな歴史へ、新チームの挑戦はすでに始まっている

全国ベスト8という歴史を刻んだ3年生の思いを受け継ぎ、後輩たちはすでに新たな一歩を踏み出しています。目指すのは、先輩たちが切り開いた道のさらに先。石谷コーチも初めて経験した全国大会で強豪校の実力を肌で感じ、全国ベスト4への思いを一層強くしたといいます。先輩たちが重ねてきた歴史と強さを守るために、なにか特別なことをするわけではありません。日々の努力とたゆまぬ研鑽（けんさん）を、より高い強度で継続していくこと。簡単な道のりではありませんが、初心を忘れず、さらなる高みを目指します。選手たちの挑戦は、これからも続いていきます。

さらなる高みへ
挑戦は終わることはありません